（公財）明治安田こころの健康財団　研修講座
発達障害・専門講座10（26210）

【福岡開催】

10/4
（日）

レジリエンスを支える臨床知の継承

―発達臨床・アタッチメント・トラウマ臨床の対話と統合―

対談：　村田豊久先生追悼：自閉症をもつ子どもと家族への支援をめぐって

企画講師

九州大学病院
子どものこころの診療部
特任准教授
山下　洋 先生

日時　2026年10月4日（日）
10時00分～17時10分

費用　8,500円（税込）

定員　150名

会場　明治安田ホール福岡
〒810-0801 福岡県福岡市博多区中洲5丁目6-20 明治安田生命福岡ビル1階
地下鉄空港線「中洲川端」駅 3番出口より徒歩約2分

申込　財団HPより申込み受付
期限：10月１日（木）まで

セレクト講座４

◆当財団は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として
（公財）日本臨床心理士資格認定協会より「短期型研修会（ワークショップ）」の承認を受けております。　<承認期間：2022年7月2日～2027年7月1日　承認番号：20210392>
◆当講座は（公社）日本公認心理師協会より「認定専門公認心理師」の認定にかかるテーマ別研修として承認されております　<承認番号：26A-0074、分野共通、5単位>

レジリエンスを支える臨床知の継承

本講座ではこれまで、逆境的小児期体験（ACE）、アタッチメント、トラウマ、発達臨床を手がかりに、困難に直面する子どもと家族をどのように理解し、支えるかをテーマとしてきた。2026年度は日本児童青年精神医学会との連携企画として、その共通主題である「レジリエンス」を、発達臨床・アタッチメント臨床・トラウマ臨床を架橋する視点から取り上げる。ここでいうレジリエンスとは、個人の強さや適応力のみを指すものではない。信頼できる関係、安心できる生活、医療・教育・福祉・地域の支えのなかで、子どもと家族が傷つきや困難を抱えながらも、発達と回復の道筋を再び見いだしていく関係性発達の過程である。発達特性、関係性、トラウマ体験は、ときに異なる領域として語られるが、実際の臨床実践では一人の子どもと家族の生活のなかで重なり合っている。

本企画では、九州の地で自閉症をもつ子どもと家族への支援に大きな足跡を残された村田豊久先生を追悼し、その臨床の「まなざし」と問いを現代の実践にどのように継承するかを考える。児童精神科臨床における森田療法と関係発達、発達障害と複雑性トラウマ、発達精神病理を基盤とする教育・福祉・家族支援の連携を手がかりに、子どもと家族のレジリエンスを支える臨床知を多角的に検討する。対談では、異なる臨床領域の緊張や相違を対立ではなく相互補完的な視点として捉え直し、地域に根ざした多職種協働の可能性を参加者とともに考えていきたい。　【企画講師：山下　洋】

プログラム	時間	テーマ／講師　（敬称略）
	10:00～11:00	レジリエンスをめぐる対話に向けて ―発達臨床・アタッチメント・トラウマ臨床を架橋する視座― 山下　洋（九州大学病院　子どものこころの診療部）
	11:10～12:30	児童精神科臨床における森田療法とレジリエンス ―村田豊久先生から学んだ、子どもと家族へのまなざし― 原田　聰志（国立病院機構琉球病院）
	12:30～13:30	～ 休　憩 ～
	13:30～14:50	トラウマ臨床から見たレジリエンス ―発達障害、複雑性トラウマ、家族支援をめぐって― 杉山　登志郎（福井大学子どものこころの発達研究センター 客員教授）
	15:00～16:20	発達精神病理学から見たレジリエンスの実装 ―教育・福祉・家族支援をつなぐ多機能型・都市型児童家庭センターの臨床― 黒木　俊秀（中村学園大学教育学部特命教授）
	16:30～17:10	対談 「レジリエンスを支える臨床知を語る」 ―村田豊久先生の臨床知をこれからの発達支援にどう継承するか― 上記講師4名

<注意事項>
・時間割・テーマ等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。
・本講座は当日の講義を収録し、後日オンライン配信をいたします。すべてのプログラムについて撮影ならびに録音を行うため、カメラに映る可能性があること、また質疑応答等でお話しいただいた内容が配信されることをあらかじめご了承ください。

【主　催】公益財団法人 明治安田こころの健康財団
【照会先】〒171-0033　東京都豊島区高田3-19-10　E-mail：moushikomi@my-kokoro.jp
TEL：０３－３９８６－７０２１　ＦＡＸ：０３－３５９０－７７０５